

東北大学附属図書館報

木這子

BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

—木這子（きぼこ）とは東北地方の方言で、こけしのこと。小芥子這子（こけしぼこ）—

狩野文庫と
古典目録

狩野 亨吉博士（慶応元年～昭和17年）の旧蔵書、所謂狩野文庫は、東北大学附属図書館が所蔵する特殊文庫のうちの白眉であり、本館所蔵和漢書古典の中核的根幹をなすものである。

これは、第一次（大正元年～昭和4年）、第二次（昭和18年）にわたって寄贈あるいは購入をもって本館に帰属したものである。そのはじめ明治45年の頃当時は、理科大学と農科大学で成立していた東北帝国大学に和漢の古典を主体とする狩野旧蔵書を購入することはいかにも思い切ったことであった。このことについては、第3代村岡典嗣館長が、「東北帝国大学に未だ文科関係の学部の存在しなかった当時に、この巨額の寄附を、敢えて本文庫の購入に充てられたことは、大学の総合大学としての理想を堅持し、人文的学問の大学における意義を理解して、よく幾年の将来の為に計られた経綸の現われである」（昭和12年刊狩野文庫概説）と述懐しているが、これは初代沢柳総長の遠大な計画であり、まさに快挙であったというべきであろう。後年、大正11年法文学部が創設されるに及んで、本文庫の存在がよいよその真価を発揮したのである。

文庫の内容は、和漢の古典が大部であって、徳川末期以前の刊行若しくは書写にかかるもので占められ、唐本に対する和本が多い。古写経、古刊本、名家稿本、手沢本、公平本、草紙類その他絵巻物、絵本、地図刊本写本から金石、拓本にいたるまで、文化あらゆる領域を包括し、それが体系的に各部門平均的に網羅され、その数、33,927部、108,000冊に及ぶ巨大なコレクションである。この集書がいかに体系的なものであるかは、本文庫の内容、質を知る研究者がひとしく一驚するところであって、和漢書目録の部門項目で本文庫に欠けるものがなく、主題が一方に偏していないことも本文庫の特色の一つでもある。

本館では、文庫中特に貴重なのは、特別本とし、このなかから更に稀覯本を厳選して「別置本」として取扱っている。現在、別置本扱いの部数は約824部にのぼり、全蔵書から厳選されたものの総数の約70%が本文庫からのものである。特に昭和16年7月国宝に指定され、昭和27年11月改めて文化財保護法による国宝指定を受けた本館の誇りとする「漢 司馬遷撰 延久5年写 史記孝文本記 第十」、「菅原道真撰 鎌倉時代写 類聚国史 卷第二十五」の二点も本文庫に属するものであり、その他「応仁3年写 聖徳太子伝暦二卷」、真相選 永禄2年写 君台親左右帳記」などは重文級といわれている。主な集書としては、書目類約400部、浄瑠璃本300部、和漢朗詠集60部、和算書1,500部などがあり、

厳密な意味での貴重本が多く、各学術分野の研究者によって今日もなお往々にして意外な貴重資料の発見がなされている。

過般来、岩波書店の「国書総目録」の刊行によって本文庫の一斑が世に紹介されるや、その卓抜した内容、質が研究者によって再認識され、学術的価値が遍く知れわたるに及んで学内研究者は勿論、学外の研究者の買説、特定資料の複写希望が日増しに多きを数え、就中、本文庫の目録編纂が渴望されるようになった。

本館では、これまで本文庫の目録を作成しようとする企てがなかったわけではなかった。むしろ、完全な目録編纂・刊行こそが図書館本来の重要な任務の一つであり、本文庫のもつ書誌性全体を公にする意義からもこの事業は多年の念願ではあったが、実現に到らず、ただ文庫の整理の過程において、大正3年2月「東北帝国大学所蔵狩野氏旧蔵書仮目録」、昭和11年10月「和漢書別置本目録未定稿」などにその一部分を収め、昭和12年11月「狩野文庫概説」に本文庫分類表を収録して刊行し、昭和36年10月「和漢書別置本目録増訂稿」の刊行をみるに過ぎなかった。

昭和38年3月、本学関係部局の専門教官及び本館関係者をもって組織した「和漢書古典目録編纂委員会」が発足して、同委員会が収録範囲、特殊分類表、原稿カード基本記入要項を審議し、狩野文庫とそれ以外の全学和漢古典を包括した、例えば本館所蔵一般古典、旧第二高等学校所蔵本、和算資料（理学部）建築史資料（工学部）、医史学資料（医学部）などの一群を加えて、新しい条件のもとでの本格的目録編纂が企画されたのである。

これは、本学所蔵の和漢書古典約20万点を網羅した和漢書古典総合分類書冊目録であり、これを編纂・刊行しようとするものである。この大事業は、大学図書館としては我国最初の試みであり、その原稿カードが約58万枚に及ぶ和漢古典の一大集成である。

その第一巻「漢籍之部 史部、経部」は昭和48年度に刊行され、次いで翌49年度「漢籍之部 子部、集部、叢書部」を、50年度「和書上」が刊行された。続いて「和書中」、「和書下」、「漢籍索引」、「和書索引」の7部構成で続刊の予定である。

東北大学附属図書館の和漢書古典目録編纂室が学内外研究者からの目録編纂の要請があったからとは言え、図書館に課せられた本来の任務を具現しようとたゆまぬ労苦を重ね、この難事業に取り組んでいるのは、この目録が研究者に有効に利用され、狩野文庫という一大和漢古典の宝庫が開扉されて学術研究の資にされんことを希うからに他ならない。

（平 整理課長）

第23回国立大学 図書館協議会報告

標記総会が、去る6月4日（金）、5日（土）の両日、東海地区協議会を当番館として、名古屋ターミナルホテル（会場館：名古屋大学）で開催された。

参加校は、新規加盟の富山医科薬科大学、島根医科大学を含め83大学と、オブザーバーとして参加した図書館短期大学の計84大学である。

参加者は、各大学の館長、事務部（課）長、事務長及び総会関係者など約200名、文部省からは情報図書館課吉川課長、沙藤専門員、雨森大学図書館係長が列席された。

会議は、第1日、一般報告、各地区協議会報

告、各調査研究班及び各特別委員会報告、協議、研究集会、第2日、分科会、全体会議の次第で行なわれた。以下、その概要を報告する。

1 調査研究班報告

1) 「大学図書館改善」調査研究班報告

昭和47年11月に公表された現行の「大学図書館改善要項」を再検討する調査研究班で、検討の過程で問題となった主な点は、①「改善要項」の性格、②中央館と部局図書室との関係、③職員数及び予算などである。また、各委員が分担して検討する事項は次のとおりである。

1. （大学図書館）使命の達成
2. 機構と運営について
3. 職員組織について

4. 図書館学講座の設置について
 5. 図書の管理と記録について
 6. 学生に対する運営の改善について
 7. 教官に対する運営の改善について
 8. 施設の充実について
 9. 蔵書の基準について
 10. 職員数について
 11. 経理及び予算について
 12. 大学間における相互利用について
 13. 一般図書館の利用と一般への解放について
- なお、各項にわたる検討結果について、研究集会で各委員から研究発表があった。

2) 図書館機械化調査研究班報告

昭和49年度からの引継ぎテーマ①目録業務の機械化、②図書館業務機械化の指針の策定、③学術雑誌総合目録について現実的な討議を行なうための基礎資料を得るため

1. 文部省配布 MARC カードの利用に関する調査
2. 図書館業務機械化についてのアンケート調査

を行ない、その調査結果などについて活動経過の報告があった。

3) 図書館相互協力調査研究班報告

相互協力特に「文献複写」についてその問題点を指摘し、解決方策を検討した。

4) 外国雑誌調査研究班報告

実質的な検討事項は、①欠情報の実態 ②重複購入の実態、③発注経路及び契約方式の実態、④購入価格の実態を調査項目として2年計画と予定している。①、②について九州地区（国立12大学）を中心とした実態調査のデータ分析の結果報告。

5) 司書職制度調査研究班（残務）報告

①司書職制度について、②外国大学の専門職制に関するアンケート結果処理について、③「大学図書館研究」の編集と新編集体制づくりについて報告。①、②については、本研究班の最終報告書を提出する予定である。

なお、この研究班は、この最終報告をもって任務の終結が承認された。

2 特別委員会報告

1) 学術情報流通体制に関する特別委員会報告

22回総会でレポートした「研究者の情報要求と大学図書館活動」を昨年の第3回、日米会議で「研究者の情報要求の動向について—調査の集計結果を基に—」のテーマで発表した。更にこれを

整理し分析して公表しこの特別委員会の任務を終結したい。

2) 大学図書館基本問題特別委員会報告

この委員会で討議する事項は、「大学図書館改善」調査研究班、国大協の図書館特別委員会、大学図書館改善協議会などの関連する機関とも関係する。長期的展望に立って3年の予定で結論を纏めたい。なお、研究討議事項は次の7項である。

- ①、大学図書館の性格とその大学における地位、役割について
- ②、大学図書館の管理体制及び財政問題について
- ③、大規模大学における中央図書館、部局図書館それぞれの地位、役割及びそれらの相互関係について
- ④、附属図書館に教官（専任）定員及び専門員（仮称）をおくことの可否、その他図書館定員をめぐる諸問題について
- ⑤、「機械化」及び「ネットワーク」強化の具体化を推進する諸問題について（財政的問題を含む）
- ⑥、選書体制をめぐる諸問題について、とくに教官等ユーザーとの関係
- ⑦、保存図書館とその具体化をめぐる諸問題について

3 研究集会

本年度テーマ「大学図書館改善要項の改訂をめぐる諸問題」。前記の「大学図書館改善」調査研究班の報告があり、各条項を分担した委員から「改善要項」各条項の問題点について研究発表と問題提起があり、質疑応答がなされた。

4 分科会

各地区から提出された協議題が整理され、それに基づいて第1（一般的事項及び運営に関する問題）、第2（予算、人事）、第3（奉仕及び技術的問題）の3分科会に分れそれぞれ討議が行なわれた。各分科会の協議事項及び要望事項は次のとおりである。

第1分科会

〔協議事項〕

- ①図書館の相互協力——特に地域社会における図書館の相互協力について
- ②自然科学関係学術情報活動の推進及び図書館業務機械化の発展に必要な知識と素養を有する図書館職員の確保、処遇及び養成に関する

方策について

③中央図書館と分館その他の図書館（室）について

④図書館関係の諸規準の整理統合とその実現の裏付について

第2分科会

〔協議事項〕

①外国図書の購入、契約方式および予算措置について

②学部、学科の新設、拡充に図書館職員増を関連させる措置について

③図書館職員の定員削減について

④5等級より4等級への昇格の基準について

〔要望事項〕

①図書館維持費の増額について

②図書購入費の増額について

③夜間開館、休日開館の経費について

④図書館職員の研修旅費の増額について

⑤分館長への管理職手当の支給について

⑥冷房設備の予算化について

⑦国大協会長の要望の踏襲について

⑧図書館職員の定員増について

⑨参考業務の担当職員の増員について

⑩夜間開館のための体制の整備について

⑪等級別定数の枠の拡大について

⑫課長補佐、事務長補佐の設置について

⑬図書館長の待遇改善について

第3分科会

〔協議事項〕

第7回 国立大学図書館

東北地区協議会開かる

標記協議会総会が去る、5月6日（木）—7日（金）の2日間宮城教育大学において開催され、本学から和田館長、栗原事務部長、平整理課長、石川閲覧課長が出席した。協議に先立って、当番館の宮城教育大学山本学長の挨拶ののち、議事に入り、一般報告として、国立大学図書館協議会地区連絡館（理事館）の東北大学栗原事務部長から理事会、各調査研究班、特別委員会の活動状況が詳細にわたって報告された。

引きつづき、宮城教育大学鈴木事務長および東北大学医学分館松川事務長からそれぞれ「全国教育系大学附属図書館協議会総会」「日本医学図書館協議会総会」等の模様について報告された。

次いで協議に入り前号5頁に掲載の協議題について種々活発な討議がおこなわれた結果、去る6月4日（金）—5日（土）名古屋において開催さ

①「学術雑誌総合目録人文科学欧文編」の早期刊行について

②外国雑誌欠号分の事故解決の方法について

③文献複写の今後のあり方について

④学生用図書の購入方針、その他について

⑤図書館の相互協力—資料—特に海外資料—の入手について

これらの協議事項は、各分科会で討議され、全体会議で審議された。その結果、理事会、調査研究班等に付記された事項を除き、文部省その他の関係機関へ要望することとなった。

5 岸本奨励賞について

昭和51年度岸本奨励賞の応募7件について審査の結果、応募区分「図書館活動における功績」として次の3件が表彰を受けた。

1. 東洋学関係資料（石浜文庫）の整備に関する功績

大阪外国語大学附属図書館 布川 嘉佑

2. 理工系大学における図書館業務の電算化

東京工業大学附属図書館

電算機導入ワーキンググループ

3. 大学図書館における目録業務の改善

広島大学附属図書館 品川 英夫

6 その他

次回総会は、東京地区協議会（会場館：一橋大学）を当番館として開催されることが決定された。なお、本館からは和田館長、平整理課長、石川閲覧課長が出席した。

れた、第23回国立大学図書館協議会総会の協議題として「事務長補佐の設置について」「小規模大学における図書館職員の待遇改善について」の2題を東北地区より提出することが承認された。

また次期当番館については、山形大学に決定して協議会を終了し、宮城教育大学大塚館長の閉会の挨拶で解散した。

東北大学記念資料室だより

事務局庶務部広報調査課において編集刊行されている本学の「学報」（月刊）、「概要」（年刊）、「要覧」（3年刊）などは、企画の清新さで全国的な好評を博している。本室はかねて種々の面で、これに協力して来たが、今回、加藤学長の御要望によって、「要覧」の1976年版に、本学の沿革系統表を掲載することとなった。学長は6月上旬再度本室副室長とあい、詳細な指導を与えられたが、そこには本室に対する理解と本学の歴史に寄せる深い御関心が感ぜられた。

東北大学附属図書館

図書選定委員会の新しい体制

かねてより検討中であった図書選定委員会の内規および関係する運営要項がこのたび制定されたので以下にその全文を紹介する。

(制定理由)

学生の自主的研究あるいは人間形成に有用な優れた図書館資料を収集するため、従来より館内に図書選定委員会が置かれていたが、このたび「学生用図書の運用について」(学生用図書に関する専門委員会の答申、昭和48年6月30日)の趣旨および昭和50年度に実施した図書選定委員会の拡充の暫定措置等をふまえながら、人文、社会、自然科学各分野にわたる学生用図書を組織的に選定するため「図書選定委員会内規」ならびに「図書選定委員会作業グループ運営要項」を制定するものである。

図書選定委員会内規

昭和51年6月23日

第1条 附属図書館本館の学生用図書を組織的に選定するため図書選定委員会をおく。(以下「委員会」という)

第2条 委員会は図書館予算(文部省事項指定学生用図書購入費、参考図書購入費等)によって購入する図書館資料(一般学習書・教養図書・レファレンス図書および逐次刊行物など)の選定を行なう。

第3条 委員会は次に掲げる者をもって組織し附属図書館長(以下「館長」という)が委嘱する。

1. 附属図書館事務部長
2. " 各課長
3. " 各掛長
4. " 整理課受入掛・和漢書目録掛および洋書目録掛から各1名
5. " 閲覧課参考調査掛および閲覧掛から各1名
6. " 調査研究室長および研究員1名
7. その他館長が必要と認めた者

第4条 委員会を円滑に運営するために、主査および幹事をおく。

1. 主査は事務部長をもって当てる。
2. 幹事は整理課長及び閲覧課長をもって当てる。

第5条 委員は原則として毎月1回館長が招集する。

第6条 人文、社会、自然科学の各分野にわたる学生用図書を組織的に選択するため、委員会に作業グループを設ける。

第7条 作業グループの運営、図書の選定基準、その他委員会の運営に必要な事項は別に定める。

第8条 委員会の事務は附属図書館閲覧課参考調査掛において行なう。

附 則

この内規は昭和51年4月1日から適用する。

図書選定委員会作業グループ運営要項

昭和51年6月23日

1. 作業グループの構成は人文、社会、自然科学の3部門とし、それぞれの分野の図書館資料を選択する。
2. 各作業グループに班長1名、メンバー若干名をおく。班長およびメンバーは委員会が推薦し、館長が年度当初に委嘱する。
3. 各作業グループによる選択作業はおおむね、次の通りとする。
 - (1) 各作業グループは随時各種新刊図書リスト等により、関係分野の新刊書等を選択する。
 - (2) 各作業グループは選択した図書を分類別(NDLC大綱)による書名のアルファベット順のリストを作成する。
 - (3) 選定図書リストに収録する冊数、提出時期等必要な事項は図書選定委員会幹事が指示する。
4. 図書選定委員会は各作業グループから提出されたリストに基づく図書の選定並びに、各分野に属さないものの選定を行なう。

附 則

この要項は昭和51年4月1日から適用する。

指定図書リストの作成

本館では、昭和39年度より指定図書制度(学内予算措置による。)を実施してきたが、更にこの制度の改善を計る目的で昭和50年10月「全学部、教養部図書委員会会議」が開催され指定図書リストを作成することになった。この作成されたリストは指定された教官に配布し、また指定図書リストを利用する(文学、教育、法学、経済学部、教養部)学生は指定図書カウンターまで申し出て下さい。

なお、指定図書リストの配布は7月下旬頃になります。

昭和50年度特別図書購入報告

昭和50年度特別図書購入費によって下記の資料を購入しましたからご利用下さい。

図 書 名	巻 号	刊 年
近代中国史料叢刊	第83—90輯	1972—73
Les Belles Lettres: Texte et Traduction, Auteurs Grecs. (ベルレトル社、ギリシア著作者希仏対訳集)		1968
Yale Edition of Horace Walpole's Correspondence. (エール大学版、ホーレス・ウォルポール書簡集)	vol. 1—32	1775—1777
The Sacred Books of the Hindus. (ヒンズー教聖典)	vol. 1—21	1911—1918
Société d'étude du XVII ^e siècle (éd. originale et éd. réimprimée.) (17世紀研究学会報告誌—原書及び再版—)	1a73, 75a84	1949—1966 1967—69
Current Trends in Linguistics. (言語学の現代の流れ)	vol. 4, 6, 10—1. 2, 12—1	1968
Bulletin de la Société de l'Histoire de l'Art Français. (フランス美術史協会紀要)		1873—78 1907—46
American Education: Its Men, Ideas, and Institution. Ed. by Lawrence A. Cremin. (アメリカ教育全史)	56books.	1969
Известия Академий Педагогических НАУК РСФСР. Издательство АПН РСФСР, М.-Л. (ソ連邦教育科学アカデミー紀要)		1975
European Sociology: Historically Significant Works. (ヨーロッパ社会学)		1975
Archives of the Japanese Ministry of Foreign Affairs B. Showa. (日本外務省文書マイクロフィルム)	Reel. 647—722	1926—45
American Digest System. 7th Decennial Edition (アメリカ判例要旨集)	vol. 1—38	1956—66
Versicherungsrecht. (保険法雑誌)	Bd. 12—23	1961—72
Die Oeffentliche Verwaltung. (行政法雑誌)	Bd. 1—20	1948—1967
Statistik des Deutschen Reichs. Neue Folge. (ドイツ帝国統計書)	Bd. 20—63	1886—92
Statistik des Deutschen Reichs. Neue Folge. (ドイツ帝国統計書)	Bd. 64—71	1894—1895
The Accountant. (会計雑誌)	vol. 13—20	1887—1894
Wall Street and the Security Markets. (アメリカ金融・証券市場史)		1975
English Books. (英国古書集成)	No. 446—464	1475—1640
Dissertation Abstracts International. Sect. A. B. (国際学位論文抄録誌)	vol. 26—34	1965—1974
Comprehensive Dissertation Index. (米国学位論文総合索引)		1861—1972
The Collected Works of Sir Winston Churchill. (チャーチル全集)	vol. 1—18	1974
日本林制史調査資料、中国、四国、九州、その他 (マイクロフィルム版)		

蔵 書 統 計

昭和50年度図書受入冊数

種 別 部 局 別	購入図書		計	受贈図書		計	合 計
	和漢書	洋 書		和漢書	洋 書		
附属図書館(本館)	16,233	18,539	34,772	3,370	2,371	5,741	40,513
国 書 館	4,730	1,349	6,079	1,136	437	1,573	7,652
文 学 部	2,504	2,081	4,585	256	278	534	5,119
教 育 学 部	922	704	1,626	140	7	147	1,773
法 学 部	1,077	1,524	2,601	82	31	113	2,714
経 済 学 部	1,433	2,273	3,706	1,261	160	1,421	5,127
理 学 部	493	3,565	4,058	105	657	762	4,820
教 養 部	3,575	3,999	7,574	110	79	189	7,763
金属材料研究所	121	734	855	31	51	82	937
農 学 研 究 所	408	214	622	56	33	89	711
選製製錬研究所	68	455	523	58	37	95	618
科学計測研究所	52	272	324	—	—	—	324
高速力学研究所	268	425	693	5	7	12	705
電気通管研究所	109	348	457	19	4	23	480
非水溶液化学研究所	161	503	664	109	590	699	1,363
農学部附属農場 カ 演習林	18	6	24	—	—	—	24
学生部(保健セン ター等)	174	25	199	—	—	—	199
応用情報学研究 センター	50	—	50	—	—	—	50
大型計算機センター	70	62	132	2	—	2	134
医 学 分 館	2,707	5,370	8,077	671	768	1,439	9,516
農 学 分 館	976	914	1,890	336	209	545	2,435
工学部中央図書室	2,090	3,260	5,350	253	343	596	5,946
合 計	22,006	28,083	50,089	4,630	3,691	8,321	58,410

昭和50年度図書費決算額および受入冊数

部 局	支 出 額	受入冊数
附属図書館	270,533,590 ^円	40,513
医 学 分 館	81,516,258	9,516
農 学 分 館	17,878,718	2,435
工学部中央図書室	66,659,990	5,946
合 計	436,588,556	58,410

全 学 蔵 書 冊 数

部 局	和 書	洋 書	合 計
附属図書館	748,780	647,970	1,396,750
医 学 分 館	80,763	133,366	214,129
農 学 分 館	34,960	23,989	58,949
工学部中央図書室	83,922	85,835	169,757
計	948,425	891,160	1,839,585

〔資料〕

昭和50年度図書費決算額及び年間受入冊数

昭和50年度図書費決算額は436,588,556円で、前年度と比較して11,906,640円、約2.8%の増をみている。

一方年間受入冊数は、58,410冊で、前年度56,544冊に比べ、購入分は1,990冊の増をみるに過ぎない。これは、図書価格の急騰が予想以上であったことを示すもので、数年前からの加速度的増加の傾向はみられず、実質的増の低下である。

展 覧 会 へ の 出 品

○ 最近の状況

本館所蔵の貴重な資料について、協力することが適切かつ必要な展覧会に対して出品しているが最近の状況は次のとおりである。

1 本館には国宝2点が所蔵されているが、そのうち「類聚国史巻二十五」について、京都国立博物館・読売新聞社の共催で同博物館において開催された日本国宝展(会期昭和51年5月1日～6月6日)に文化財保護法に基づく措置を講じたうえで、出品した。

2 漱石文庫のうち6点について、共同通信社・愛媛新聞社の共催で、松山市三越支店(会期昭和51年3月16日～3月28日)及び日本橋三越本店(会期昭和51年4月20日～4月25日)で開催された「子規と漱石展」に出品した。この展覧会には夏目家その他関係者の積極的な協力があつた。

3 大英博物館所蔵の臨顧置之「女史箴卷」を小林古徑・前田青邨画伯が模写し本館所蔵となった絵巻について、日本文化財団・京都市が共催し、前田青邨画伯の協力を得て京都市美術館で開催された「前田青邨展」(会期昭和51年6月6日～7月4日)に出品した。

4 安井曾太郎画「玉虫先生の像」について河北新報主催の河北展(昭和51年4月27日～5月10日)に本学記念資料室から出品した。

○ 出品の条件

大学図書館の貴重本などの資料は優れた文化財ではあるが、主として大学を中心とした学問研究のために保存・提供するものであることから、展覧会への出品協力も博物館等の所蔵品とは異なり一定の条件が必要と考えられる。そのために大学図書館として資料を出品し協力することが「適切」かつ「必要」な展覧会については慎重な検討を要するが、ここでは実務上の必要により暫定的な考え方をまとめておく。

(出品することが「適切」な展覧会)

- ① 内容が学術文化の振興に寄与する
- ② 主催者及び会場が信頼のおける(準)公的機関である
- ③ 展示中の管理・搬送等の条件及び安全性への配慮が的確である
- ④ 会期等が学内の利用を妨げない
(協力することが「必要」な展覧会)
- ⑤ 法律等による要請
- ⑥ 著作者等の要請
- ⑦ 当該専門分野の研究機関(学内部局)、団体(学会)の要請
- ⑧ 当該資料の収集・発掘・紹介に貢献した学内研究者の要請

以上のうち①～④の全てを満たしかつ、⑤～⑧の何れかがあることを原則とし、これらの諸条件を図書館長が総合的に判断し、展覧会への出品を決定する。
(石川寛寛課長)

新入生のための図書館利用

オリエンテーション開かる

新入生に図書館及び図書館資料を上手に利用してもらうためのオリエンテーションが4月13日（火）～15日（木）に本館AV室で行なわれた。初めての試みではあったが、好評で迎えられたので、来年以降はスライドなどの利用も考え、一層充実する予定である。

夏季休業中の他大学図書館利用

夏季などの休業中に全国の国立大学図書館（東北地区は公私立大学も可）で図書の閲覧を希望する学生は、相互利用カウンターで、備付の申込用紙に記入し在学証を提示して申し込んで下さい。館長名で閲覧許可願を発行します。

蔵書点検

昭和51年度蔵書点検を、7月12日（月）から17日（土）まで実施した。この作業は図書館サービスの前提となるものであって、点検範囲は、本館が所蔵する貴重書を中心とした第二次狩野文庫、同洋書部門、貴重書（別置本）の約3万5千冊であった。

開架図書の配架整備

開架閲覧室は7月12日（月）から17日（土）まで資料の配架整備を行ない、この期間、利用の停止をしました。

行事予定

9月21日～22日

第50次国立七大学附属図書館協議会および第8回国立七大学附属図書館部課長会議開催、於名古屋大学（いそぶえ荘会場）

9月28日～29日

第31回東北地区大学図書館協議会総会開催、於東北大学（玉造荘会場）

10月上旬

国立国会図書館長と大学図書館長の懇談会開催予定 於岩手大学

夏季開館時間

夏季休業中の開館時間は下記の通りです。

期間 昭和51年7月12日（月）から8月31日（火）まで。

平日 午前 9.00～17.00

土曜 午前 9.00～12.00

人事異動

（4月1日付）

医学分館に事務長制が承認され

（医分）事務主任 松川 衛

事務長に昇任

（医分）運用掛 文部事務官 遠藤 肇

東京工業大学附属工業高等学校図書掛長に昇任

（医分）総務掛 文部事務官 五十嵐 精三郎

辞職

（4月17日付）

（本館）参考調査掛 文部事務官 大脇 純子

辞職

（5月10日付）

（本館）書庫掛 文部事務官 京極 菊子

（本館）和漢書目録掛に配置換

（本館）参考調査掛文部事務官 村岡 徹

（医分）運用掛に配置換

（6月1日付）

（本館）受入掛 事務補佐員 塚田 弘子

文部事務官（本館）受入掛に採用

（本館）書庫掛 事務補佐員 森脇 ちか

文部事務官、（本館）参考調査掛に採用

（本館）受入掛 文部事務官 阿部 佳市

（本館）相互利用掛に配置換

（本館）相互利用掛文部事務官 菅野 博之

（本館）参考調査掛に配置換

（6月16日付）

上田 京子

事務補佐員（本館）庶務掛に採用

（理学部）事務補佐員 斎藤 啓子

事務補佐員（本館）会計掛に配置換

（工学部）事務補佐員 菅野 篤子

事務補佐員（本館）受入掛に配置換

福永 須和子

事務補佐員（本館）閲覧掛に採用

東北大学附属図書館報「木遣子」 第1巻 第2号（通巻2号）昭和51年7月31日発行

編集委員長 栗原一郎 編集委員 沼田恵美、菅野博之、細谷伸枝、松井好次

発行人 栗原一郎 発行所 東北大学附属図書館 仙台市川内 電話 代表 22-1800 (5158)